



みんな再生！広島湾

～広島湾再生の活動体験&ミーティング～

<第1回 開催報告>

1. 開催の目的

広島湾再生推進会議は、関係省庁や自治体などが連携して、海の再生を推進する「全国海の再生プロジェクト」の一環として設立され、広島湾の良好な環境の再生を目指し、行政や地域住民が連携して環境保全・再生に関する取り組みを総合的に推進することを目的とした「広島湾再生行動計画」を平成19年3月に策定しています。

今年度は「みんな再生！広島湾～広島湾再生の活動体験&ミーティング～」と題し、2回に分けて市民参加型イベントを開催することとなり、**第1回は、干潟での生き物観察講習や宮島水族館での取り組み紹介を通じて参加者に広島湾の保全・再生に興味をもってもらうことを目的として、平成25年10月20日（日）に開催しました。**（※第2回は、平成25年11月16日（土）に開催予定）

2. 開催概要

開催日：平成25年10月20日（日）13:00～17:00

会場：宮島水族館 及び 宮島水族館前 大元干潟

プログラム

○開会・オリエンテーション

趣旨説明、広島湾再生行動計画の概要
生き物観察の方法について

○宮島水族館の取り組み紹介（宮島水族館内）

- 水族館職員のご案内による、館内のカキ養殖再現水槽、アマモ水槽などの展示水槽とバックヤード見学
- 広島湾の生き物の保全やPRのための取り組みについてのご紹介

○生き物観察講習（宮島水族館前 大元干潟）

- 各班に分かれ、水族館職員とボランティアの指導の下、干潟の生き物観察と水質測定体験を実施

○生き物観察結果のとりまとめ

（宮島水族館 レクチャールーム）

- 各班ごとに、干潟での生き物観察結果のとりまとめを実施

○発表

- 各班の代表者によるとりまとめ結果の発表



イベント開催場所



大元干潟



アマモ展示水槽

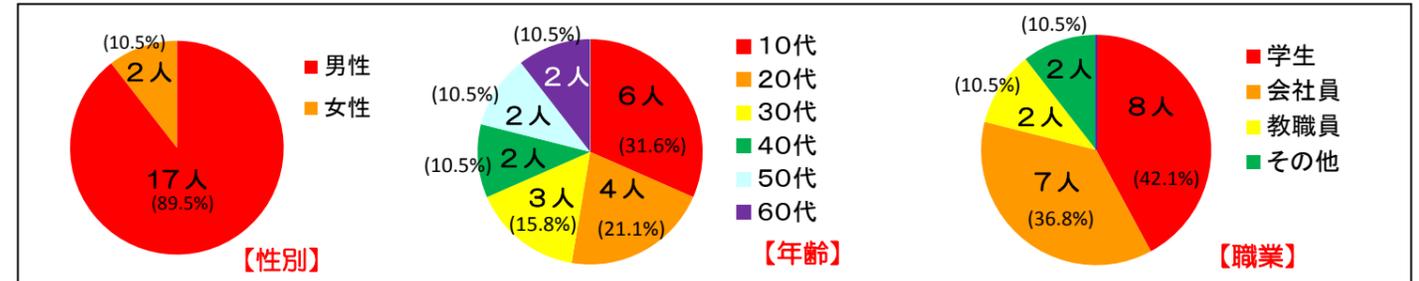
宮島水族館



カキ養殖再現水槽

3. 参加者

今回の第1回イベントには、**19名（男性17名、女性2名）**の方にご参加いただきました。年齢層は、10～20代の方が約半数、職業は学生と会社員の方が約8割ですが、その他様々な立場、年齢層の方にご参加いただきました。



4. 開催結果

4-1. 宮島水族館の取り組み紹介

宮島水族館の職員の方にご案内いただきながら、館内の展示水槽や、普段見ることができないバックヤードの見学を行いました。

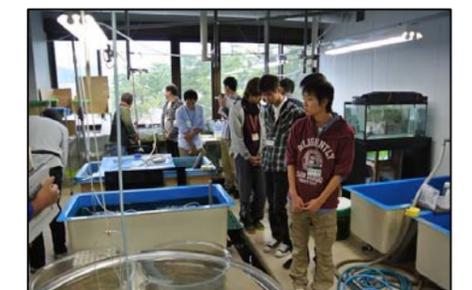
カキ養殖再現水槽では、飼育しているカキに餌（プランクトン）を与えるため、他の水槽とは異なり、ろ過していない海水を循環させていることなどを解説いただきました。また、魚の展示だけではなく、実験室では、**広島湾流域の貴重な魚を繁殖させるための実験**や、国内では宮島だけに生息する絶滅危惧種の**ミヤジマトンボ幼虫の人工飼育**など、生き物を保全するための様々な取り組みを行っていることを紹介していただきました。



水槽裏側の設備の解説



実験室において、稚魚の繁殖やミヤジマトンボ幼虫の飼育状況などの解説



スナメリ水槽の裏側



カキ養殖再現水槽の様子



4-2. 生き物観察講習

参加者は各班に分かれ、宮島水族館前に広がる大元干潟において、生き物観察講習を行いました。ほとんどの参加者は、このような干潟での生き物観察を体験するのは初めてでしたが、水族館職員とボランティアの方から、生き物の見つけ方や見分け方のコツを丁寧に解説して頂き、時間を忘れて色々な場所での生き物観察を楽しんでいる様子でした。また、「海の掃除屋さん」と呼ばれるアラムシロの習性を調べる簡単な実験も行いました。干潟上にアサリのむき身を置くと、匂いに釣られたアラムシロがたくさん集まってきて、アサリをきれいに食べてしまう様子が観察されるなど、干潟の生態系の不思議さを実感することができました。



水族館とボランティアの方が製作した干潟の観察ノート（一部）
生き物観察チェックシート



大鳥居より西側には広大な干潟が出現
石垣の隙間にカメノテを発見
カニの巣穴を掘り起こしてみると…？
干潟前面にはアサリ養殖場があり、杭を立ててナルトビエイの侵入を防いでいる。
アサリのむき身を置くと、どこからともなくアラムシロが群がってくる
干潟で熱心に生き物を探す参加者
干潟の生き物観察の様子

4-3. 生き物観察結果のとりまとめと発表

最後は、各班ごとに、生き物の種類と見つけた場所、その場所の特徴などを模造紙に書き込む、生き物観察結果のとりまとめを行いました。また、今回生き物観察を行って見た感想と、今後このような生き物観察イベントを行う場合の課題についても話し合いました。話し合った結果は、最後に各班の代表者に発表していただきました。



生き物観察結果の感想、今後の課題

(課題)

- 専門用語を、易しい言葉でレクチャーできればよい。
- 日頃、なかなか干潟を観察できる場所や機会が無い。
- 簡単に生き物の種類がわかるようなテキストなどがあつた方がよい。
- ガイドさん、生物図鑑、観察道具があればよい（自分では用意がむずかしい）。
- このようなイベントは、インターネットでもっと広報すべき。
- 観察時間は長めにした方がよい。また、アマモが観察できるように、もっと潮がよい時期に行うべき。

(感想)

- 実際に目で見て、手で触って観察することが楽しい。
- 生物が生息可能な場所（岩や砂場）の理由が分かった。
- もっと色々現地を見たい（写真だけではわからない）。
- 他の海の生物と比較してみたい。
- 生産性のある海だと感じた。
- 隠れた生き物が沢山出てきて集まるので驚いた。



生き物観察結果のとりまとめ（模造紙に、生き物の写真や見つけた場所などを記入）

5. 参加者へのアンケート結果（抜粋）

参加者へのアンケート結果によると、今回のイベントでは、干潟での生き物観察講習がもっともよかったとの回答が得られました。生き物観察の方法についても、参加者全員が、ある程度理解ができたとの回答が得られました。また、今後参加してみたいイベントとしては、今回の生き物観察のような環境学習のほか、藻場をつくり育てるための活動や海岸ごみの清掃活動などの回答が多く得られました。

